

す

く

す

く

82号



東京都済生会中央病院附属乳児院 2023年度 第1号 2023. 4. 1 発行

東京都済生会中央病院附属乳児院 院長 岡尾 良一

花の便りに心躍る季節となり、我が家の梅の木も開花して、メジロとムクドリが花の蜜を紡ぎに訪れるようになりました。日頃より地域の皆様には多大なご支援とご協力を賜り深く感謝申し上げます。



3月3日は、ひなまつり会を行い、ひまわり・たんぼぼ・こすもすほか、各部屋の乳児から幼児全員の子どもたちが行事に参加することができ、とても賑やかで楽しい会となりました。

また、桜の開花に合わせて近所の公園へお弁当を持って散歩に出かけて、春のうらかな時間を満喫することも叶いました。

新たな年度を向かえ、新型コロナウイルスは感染症の分類が第五類へ変更されますが、社会がどのように変化していくのか、まったく予測がつきませんが、感染症に負けず、子ども達は元気に楽しい日々を送ることができるようにしていきたいと思います。

当院は、引き続き感染対策をしっかりと実施しながら、遠足など多くの行事を取り行うことで、子どもたちが体験を重ね、それぞれの発育に繋がられるように、「子どもニーズ 子どもファースト」を大切に愛着、信頼関係を築いて発達支援、養育支援の活動へチーム養育を通して協力してまいります。

済生会は、社会的に弱い立場にある人など、すべての人々を地域の一員として受け入れ、共に支え合って生きていくという「ソーシャルインクルージョン」に取り組んでおり、医療・介護・福祉を通して地域とつながっている済生会は、どんな人でも自分に合った生活を各地域でしていける「まちづくり」を目指し、誰も排除されずに、地域住民の一員として暮らせるような地域社会づくりに取り組んでいます。

乳児院では、地域の子育て支援として、乳幼児ショートステイ事業を港区・品川区から受託しております。どうぞお悩み、ご不安がございましたら、地域の相談場所の一つとさせていただき、ご遠慮なくご相談ください。

まだ、花冷えの日が続いておりますので、風邪などひかぬようにお気をつけください。

院長 岡尾 良一

#### 理 念

「済生の精神」に基づいた思いやりのある養育の提供を通じて社会に貢献します。  
（「済生の精神」とは、分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉を差し伸べることです）

#### 基 本 方 針

「子どもニーズ 子どもファースト」

私たちは、常に子どものことを第一に考え、子どもの目線に立ち、子どもの気持ちの代弁者として実践し、一人ひとりの子どもの最善の利益を追求します。

1. 子どもが安心できる環境の中で、個性を尊重し、愛情を注いで養育します。
2. 愛着関係を大切にし、情緒豊かな子どもに育てていきます。
3. 感動や成功体験を通し、子どもの自立心を養っていきます。
4. 子どもの成長の喜びを保護者と共有し、親子関係を大切にしながら養育します。
5. 乳児院職員として、向上心や探究心を持ち、人間性・専門性を高めていきます。



## 初詣



1月1日に元神明宮へ、初詣に行きました。

本殿や鳥居、狛犬など子どもたちは興味津々で「これは？」と沢山大人に質問し、多くの発見がありました。長い階段を上って本殿まで歩き、一人ずつ順番に二礼二拍手一礼の作法で拝礼しました。子ども達と一緒に、神様へ感謝を捧げ、新年の健康と平和を願いました。大人の動きを見ながら小さな手を合わせ、深くお辞儀をしたり、背伸びをしながらお賽銭を入れたりする姿に1年の成長を感じました。

初詣をした後は、頂いたお年玉をお財布にしまってコンビニエンスストアにおやつとジュースを買いに行きました。お店に陳列されている美味しそうなお菓子やジュースを、目を輝かせて悩みながら一人ひとり好きな物を選びました。お買い物が終わると、嬉しそうにお友だちや大人に見せていました。帰院後、おやつの時間に初詣やお買物のお話をしながらみんなで食べました。笑顔溢れる素敵な1日になりました。

保育士 小田原みなみ



## ひなまつり会



3月3日、良く晴れた日にひなまつり会を行いました。

子どもたちはおしゃれをして、初節句をお祝いしました。“さんぼ”の歌に合わせて入場し、豪華なひな壇に目を惹かれる子や不思議そうに会場を見渡す子、お歌に合わせて身体を揺らしている子など様々な反応を見ることができました。そんな子どもたちの可愛い姿に大人も自然と笑みがこぼれ、和やかな雰囲気の中で会を楽しみました。劇『おおきなかぶ』では、子どもたちも参加をして力を合わせ、大きなかぶを抜きました。抜けた時には会場が1つとなり、子どもからも大人からも大きな歓声が上がりました。

お部屋では雛あられと手作りケーキを食べ、五感でひなまつりを楽しむ1日となりました。

保育士 田村 友菜



## 日常の様子

各居室の子どもたちの日々のエピソードをお届けします。

### たんぽぽ



食事の時に小さいおにぎりを作って食べることが、たんぽぽの子どもたちは大好きです。

食べやすい一口サイズのおにぎりを職員が握ると、そのままパクッと食べる子や、おかずやスープと一緒に食べる子など、みんな思い思いの食べ方で食事を楽しんでいます。

保育士 厚海 孝裕



### ひまわり



乳児院では月に一度防災訓練を行っています。

子どもたちは訓練中の大人の姿をよく観察して覚えているようで、遊びの最中に突然「防災訓練するよー！」「帽子かぶって！靴下はいて！」「火事です！〇〇くんは消火器を持ってきます！みんなは避難してください！」と訓練が始まります。その様子を見守っていると「大人はヘルメットをかぶるんだよ！」と促され、子どもたち指揮のもと、大人も訓練に参加しました。

子どもたちの観察力と記憶力に驚かされる毎日です。

保育士 栗野 桃子



### こすもす



低月齢のお友だちが増え、こすもすのお兄さんお姉さんたちはお世話したい気持ちでいっぱいです。特に最近では、おままごとのスプーンで援助する真似をしたり、布を掛けて寝かしつけをしてくれたりと、小さな大人がたくさんいます。

泣いている時や困っている時に、優しく頭を撫でてくれるお兄さんお姉さんたちの姿に、頼もしさと共に心が温かい気持ちになります。

保育士 植田 美月



### ちゅーりっぷ・さくら

乳児ユニットであるちゅーりっぷ・さくらは、触れ合い遊びを行うと様々な反応で応えてくれます。寝返りができるようになったAちゃんは、触れられると「はっ！」「きゃっ！」と声を発しながら体をひねります。首が据わったB君は、「あー」「うー」とお話ししながら手足を活発に動かします。これから首が据わるCちゃんは、口を動かしながらこやかに微笑みます。

次は何の触れ合い遊びをしようかと楽しみな、今日この頃です。

保育士 前田 朋子



## 勉強会 ～権利擁護～

2月に、権利擁護委員会主催の勉強会『食事・睡眠におけるロールプレイ』を実施しました。良い例・悪い例の2場面をシナリオに基づいて実演者が再現し、再現後に参加者全員で振り返り、意見を出し合いました。対比した2場面について考えることで、より深く振り返ることが出来ました。ロールプレイを取り入れたことにより、客観的に捉えることができ、また、実践的な意見交換を行えたことで、何を1番大切に関わっていくのかを改めて意識・共有できたと感じます。

今後も保育の質の向上に向けた勉強会を続けていきたいと思えます。

院内研修担当 恩田 春花



## 心理士だより ～違う枠組みでとらえてみる～

子どもたちのことが心配で、「落ち着きがない」「ガンコでいつまでも言い張る」「すぐにオモチャを取ってしまう」「好き嫌いが多く」などと頭を悩ませることがあります。

また、自分のことで「花粉がたくさん飛んでいてユウウツ」「新年度、あれこれ変わってめまぐるしい」「いつもいつも忙しくてイヤになる」とグチることもあるでしょう。

悩みやグチを表現して誰かに聞いてもらおうと、自分の頭の中でまた次の思いが浮かんでいきます。その時、ちょっと視点を変える、別の角度からみることで肩の力が抜ける経験ができると思うのです。

例えば、上の7つの悩みとグチを「好奇心旺盛」「ガンバリ屋で粘り強い」「お友達に関心がある」「味の違いがわかるグルメ」「もう寒くはならないな」「新しい出会いに期待」「仕事があるのはシアワセ」と考えてみる。

こんな風に、違う枠組みでとらえる＝リフレーミングすることで何かが変わる、前へ進むことができるように思います。「凶々しい」→「積極的」、「引っ込み思案」→「周囲を優先する」など、短所に見えることも長所として生かすことができます。日頃から柔軟に考えたりみたりすることができるよう、余裕のある楽しい日々を送れるといいですね。

臨床心理士 柴田 薫



## 地域交流会を行いました



2月16日に港区芝地区 民生委員・児童委員との地域交流会を行いました。

地域や里親支援について説明を行い、その後、乳児院内の見学もいただきました。



### 【0～3歳児の育児にお困りの方へ】

当院では育児相談を平日9～16時に受け付けています。 担当 看護師長 小泉

### 【寄付金について】

当院では子どもたちの養育環境整備のため寄付金を募っています。 担当 事務 竹田

上記について詳しくは右記までご連絡ください。 TEL 03-3451-8289(直通)

「すくすく 第82号」2023.4.1 発行

〈発行人〉 岡尾 良一

〈編集委員〉 小泉 菜穂子

前田 朋子

栗野 桃子